

つくろう職場に労働運動を！ ひろげよう闘いを 職場に、地域に、全国に！



国労西日本

国労西日本本部

NO. 378

発行責任者 植田 重信
編集責任者 大北 真也

第45回拡大委員会 8名から活発な発言



石田委員 (近畿)

要求満額獲得に向けてストライキの通告をするよう要請する。広島で日勤を特休へ勤務変更される事象があったが取り扱いはいかがなものなのか。輪軸改ざん問題があり、脱線事故があったが国労として「安全・安心」を主張しており声明は出されないのか。新人事賃金制度による評価は不明確である。制度として問題がある。組織拡大を行なってきた。加入者は頑張りたいたいと決意をされている。しっかりと訴えることが大事である。



小林委員 (岡山)

岡山地方本部としてみかん狩りを取り組んできた。職場の仲間が参加をしてくれている。旗びらきでも職場の仲間の参加があった。組織拡大に向けてしっかりと対応していきたい。北長瀬駅・鴨方駅にて宣伝行動を取り組んできた。参加人数は減ってきているがしっかりと行動を取り組み、グループ会社・本場で拡大を勝ち取っていく。



細田委員 (米子)

シニアの給料は手当も含め3分の1カットされたが、生活は3分の1カット

国労西日本HP



国労西日本 検索

トできない。毎月赤字で社員の時は期末手当で補填していたがシニアは精励手当では対応できず退職金で赤字の補填を行なっている。社員と同じ仕事をし、期末手当とするべきである。春闘でしっかりと賃上げを！



小島委員 (広島)

昨年社名が変更となった。バス業界では厚生労働省が基準を定めており、乗務制限連続運転4時間以内、一日休息9時間、11時間と定められ、またまった休憩も無くなっている。行路がきつくな



TUNAG

TUNAGを利用中
組合員の皆さん登録しよう
登録は西日本本部または地方本部へ

ており改悪されている。遠距離通勤により在宅休養時間も少ない。人に見られた状態で休憩をしているが休憩にならない。給料と見合わないとして退職も増えている。ローカル線問題でBR Tの話があるがバス業界は人手不足で現実的ではないと考える。



脇田委員 (近畿)

国鉄が「分割・民営化」され、JRの利益第一経営と政府の規制緩和のもとで「人減らし合理化の推進」「労働条件の低下」「非正規労働者の増大」「技術継承問題」など安全輸送が脅かされている。構造矛盾の解決、公共交通としての使命を果たさせないといけない。安心できる職場づくりを奮闘する。ストライキをもって要求の実現と組織拡大へ結合した運動が必要である。安全・サ一ビスの低下には反対する！組織拡大は、良いおじ



土合委員 (北陸)

さんで終わらず、粘り強い付き合いが大切である。鳴野駅の安全問題や諸要求の実現、非正規労働者の正社員化、安全・サ一ビスの低下など、職場闘争を強化し、全組合員の参加で春闘を取り組む。執行委員会や旗びらきにおいて議論しストライキ要請を上げてきた。分会は本気で闘う決意である！

能登半島地震から1年、未だ復旧・復興には道半ばである。しっかりと支援していく。冬季間の対応について、ソフト対策ばかりで利用者や労働者の安全を考えない。大阪・関西万博の開催により「合理化」施策が進められている。利用者の安全性や利便性が低下している。労働条件の改善、技術継承の問題など職場からの要求で交渉を強化する。地方ローカル線の維持・存続・物流ルートなど安

全対策等が問われている。貨物鉄道の役割と課題として労働講座を開催してきた。2月は地方公共交通を守る集会として学習会を開催予定である。



宮野委員 (近畿)

管理駅体制の見直しで本社は、C層は触らないと回答しているにも関わらず、近統はC層の異動を主張し「本社・本部間でC層削減等の議論はされていない」として近統の施策を正当化してきた。西日本本部から本社に対して抗議をしていただき謝罪に來たが、本社からしっかりと指導してもらいたい。労働協約にもある信義誠実とは到底言えない。上辺だけの労使関係であり抗議をしていただきたい。

うな議論はしていない。労働時間が確保されていない時にその他業務を活用して労働時間を補うものであり近統内では出来ない。協約違反にあたる。西日本本部から抗議していただいている。近畿からも支えたい。宣伝行動を行なった結果、施策に反対し職場を守りたいとして加入を決意してくれた。現場

で迅速に動いた結果である。乗務員に負担を与えては安全・安心は生まれにくい。今後も拡大運動に奮闘していく。



本多委員 (近畿)

工場部門は全面的に外注化された。テクノスでも要員不足となっており。技術継承もしっかりと出来ていない。実態がある

にも関わらず「かせぐ」へ走っている。外国人労働者を採用し取れない大きな事故に繋がりがねない。外注化施策の見直しが必要である。過去に会社は重要な箇所は外注化しないと誓っている。現場から声をあげ奮闘していく。

大北書記長集約要旨

4月25日、福知山線事故から20年、会社は事故の反省をしていないのか、教訓として施策を考えているのか、労働者・利用者としての生命を大事に考えているとは到底思えない。会社は本気で安全・安心を感ぜられない。「安心」とは安全が前提にあり、定輸送を継続して、利用者の安全が第一で、労働者から気持ちが生まれるものである。労働人口減少の対策で人を減らし労働密度を強化しては労働者にとって行き過ぎた無理である。行き過ぎた「合理化」に歯止めをかける、本来のあるべき姿を求め労働者が安全・安心な状態で業務が出来るように奮闘していく。労働組合の必要性と役割をしっかりと示し、国労の主張を働く全ての仲間に見せたい。

現場からの声を吸い上げ、ストライキも知らない、見たこともない、JR採用の組合員が増えており、その組合員が機関の役員を担ってきている。もう一度しっかりと権利を学習し、運動の継承をしなればならない。アンケータでもわかるように組合員含め労働者とその家族は困っているということをつきつ、生活改善に向けて全力で闘っていく決意である。共に働く職場の仲間も巻き込んだ運動の展開をお願いしたい。各機関において意志統一を行ない、全員が本気を出せばまだまだ出来るんだという本気を見せていこう。後には要求を主張し、最後の最後まで共に奮闘していく決意である。

行なわれている。昨年の集約で全国的な闘争にしていこうと発言したが、全国的な運動となってきた。道ダイヤ、増便などでも求め、利用者や周辺の住民などとも連携し移動する権利を守りたいと思う。「分割・民営化」反対を闘ってきた国労だからこそ、もっと声をあげ奮闘していかなければならない。国労が全国で団結して守る運動の強化をしていくように奮闘していく。

組織拡大・強化について、見える運動を職場から展開し、もう一度国労を多数派にしていきたい。動いて拡大が生まれた実績が委員の発現にもあった。しっかりと各現場から見える運動の展開を行なう。S・N・Sなど活用していく。行動が必ず結ばれる時がくると確信をもち、組織拡大に奮闘して頂きたい。西日本本社・貨物関西支社前での総行動にはぜひとも全組合員で取り組む運動として昨年同様、工夫した取り組みをお願いしたい。職場で共に働いてほしい。組織の拡大・強化運動として奮闘をお願いする。「TUNAG」を活用しながら組合員の皆さんへの早期の情報提供を行なっていく。今までの空いた時間を活かす。その空いた時間を活かす。三原則に取り組みしていくことが重要である。慣れないから触ろうとしないのではなく、積極的にして頂いてほしい。職場の若手に聞きたい。職場の話を聞いてほしい。関係性を築き組織の拡大へ結び付けていければと思う。動かなければ一人一人の歩みは必ず大きな一歩になる。組織を守るため、全国単一組織を守るため、本部の取り組みに協力し奮闘しよう。

最後に、一人ひとりが奮闘し、楽しく運動し、元気に運動し、将来展望を切り拓く一歩を、次世代につないでいく一歩を、全組合員で一致団結し前進させようではありませんか。その先頭に西日本本部が立ち、取り組んでいく決意である。大寒波の中で、委員会となったが、身体には十分に気を付けて、組合員皆様と一緒にご健康とご多幸そして、ご活躍に祈念するとともに、国労組織の明るく奮闘する決意をまだまげ集約とする。共に楽しく奮闘しよう！

